| 演題 146 | B病棟における口腔ケアの現状と課題 |
| --- | --- |
| | 発　表　者　上野　範子（石川県　公立宇出津総合病院）<br>共同研究者　吉井　絹枝、谷口　千尋、伊勢　初香 |

## はじめに

- 患者の口腔内の清潔保持には看護師の介入が重要
- 患者の口腔内環境を改善するための課題を明らかにする

## Ⅰ　研究目的

- 看護師の口腔ケアに対する認識や口腔ケアの実施状況、スコアシートの活用状況を明らかにして現状を把握し、問題点を知ることで、今後の課題を明らかにする。

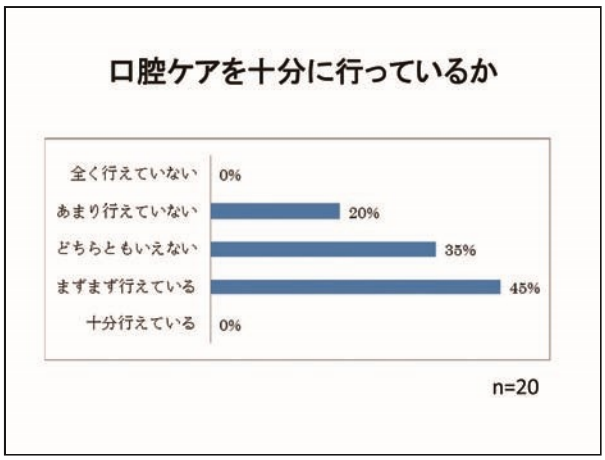
## Ⅱ　研究方法

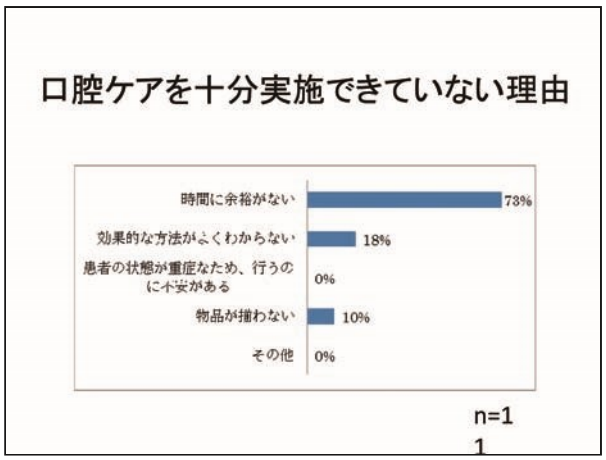
- 対象：A病院B病棟に勤務する看護師。
- 調査方法：無記名式質問紙を作成、配布、回収した。
- 調査期間：平成29年8月26日～9月5日
- 内容：質問項目は
  1）口腔ケアの認識について2項目、
  2）口腔ケアの実際8項目、
  3）スコアシートについての5項目
- 分析方法：質問項目毎に単純集計し、内容の類似性に沿って分類した。

はじめに

A病院B病棟では70歳以上の入院患者が8割を占め、口腔清潔の介助が必要な患者が約6割となっています。患者の口腔内の清潔保持には看護師の介入が重要です。A病院では2011年に質検討委員がEilersの口腔アセスメントガイドを基に、口腔アセスメント・スコアシート（以下スコアシートとします）を作成しました。スコアシートで週1回評価し、A病院の口腔ケアマニュアルに沿って口腔ケアを実施しています。縄田[1)]は「対象患者の口腔内の状況を評価表に記入し、それぞれの観察項目を点数化したことで、患者の口腔内の状況を情報共有する機会が増えた。その評価表を基に看護師間でのカンファレンスにおいても口腔ケアに対する話題も挙がるようになった」と述べています。B病棟でもスコアシートを記入していますが、スコアの改善が見られないこともあります。そこで、B病棟における患者の口腔内環境を改善するための課題を明らかにする目的で、この研究に取り組みました。

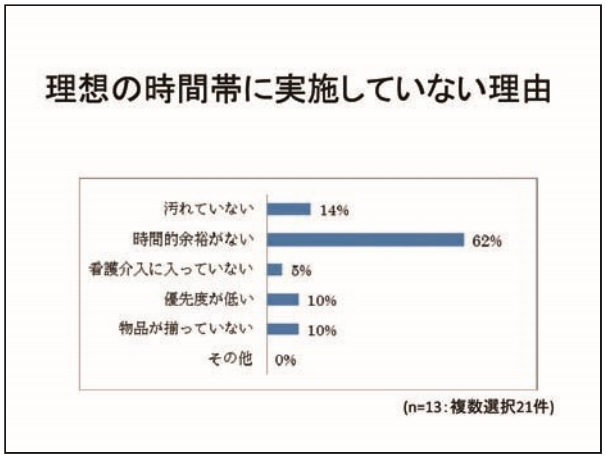
研究目的、研究方法はポスターを御参照ください。

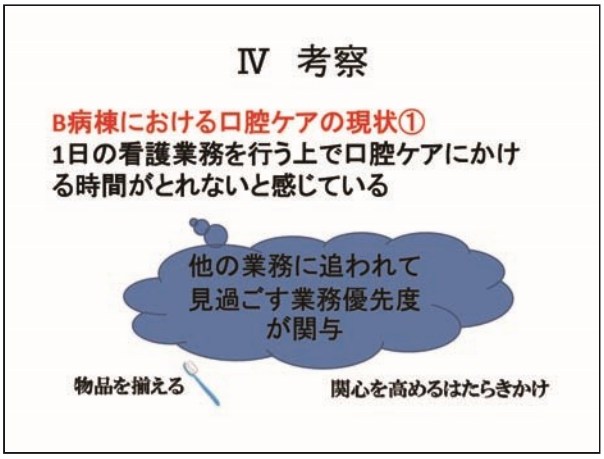


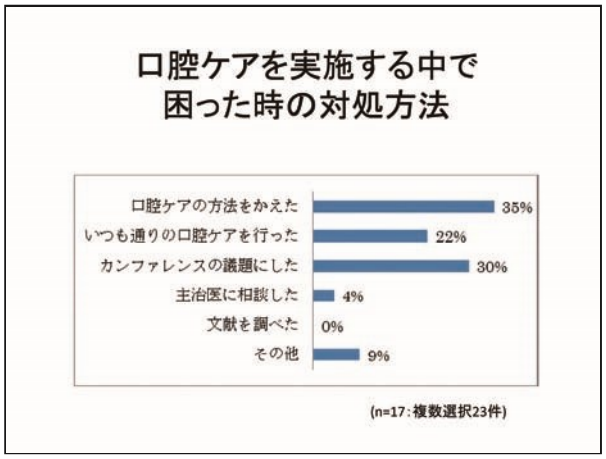


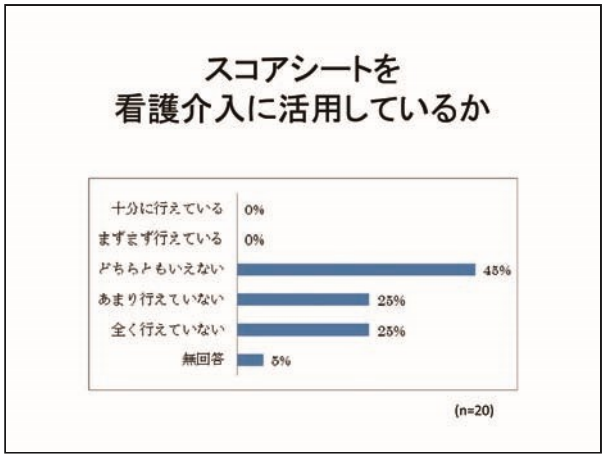

結果

「口腔ケアは必要だと思うか」の質問に対して「重要だと思う」95%、「やや重要だと思う」が５％でした。１回の口腔ケアの所要時間は平均3.1分、このうち30%が１～２分でした。口腔アセスメントの評価は「評価日に必ずする」77%、「入院時にする」26%、「評価日に時々する」26%、「したことがない」と回答した人はいませんでした。その他のアンケート結果はポスターを御参照ください。





考察

A病院B病棟のほとんどの看護師が口腔ケアの重要性を認識しており、口腔ケアをまずまず行えていると考えている人は45％でした。口腔ケアを十分に実施出来ない理由として「時間的余裕がない」と答えた人が73％を占め、1日の看護業務を行う上で口腔ケアにかける時間がとれないと感じている現状が明らかになりました。看護業務で「優先度が低い」と感じている人は10％という結果からは必要と感じながらも他の業務に追われて見過ごす業務優先度が関与していると考察されます。中村[2)]らは「口腔ケアに対する知識の向上を図り、口腔ケアを実施する環境を整えた結果、看護師の口腔ケアに対する意識が高まり、実施率が上昇した」と述べており、時間的余裕のなさを解決するにはベッドサイドに物品を揃え、看護介入を入力しその結果を看護記録に記載するという一連の業務を整えることで短時間でも解決できます。

また、口腔ケアで困った時はアンケート結果から方法を変更したり、情報を共有しようという看護師の姿勢がうかがえます。今年度よりA病院では口腔ケア技術の習得・知識の向上のため、歯科医師を含めた多職種連携を行っており、質の高い口腔ケアが提供出来る環境が与えられました。

村松[3)]は「OAGは口腔内の状態を評価するだけでなく、適切な口腔ケアが実施されているか、というケアの評価尺度としての活用もでき、評価と実施を繰り返すことによって、より効果的なケアの実現に繋がる」と述べています。アンケート結果からスコアシートを看護介入に充分活用出来ていないことが明らかとなり、口腔内環境の改善が見られない一要因と考えます。評価をケアに結び付けることが出来るようにカンファレンスの議題にする看護師個人の働きかけが重要です。スコアシートの結果を数値で示し、口腔内環境の改善を看護チームで情報共有することは、看護チームのモチベーション向上に繋がります。

**Ⅴ結論**

**1　B病棟では口腔ケアはまずまず行えており、重要性は認識しているが時間的余裕がないために十分に実施出来ていないと感じている。**

**2　入院時から口腔ケアをしやすい環境に整え、実施・評価につなげる。**

**3　スコアシートを活用し口腔内環境改善への意識を高める。**

結論

1．B病棟では口腔ケアはまずまず行えており、重要性は認識しているが時間的余裕がないために十分に実施出来ていないと感じていました。
2．入院時から口腔ケアをしやすい環境に整え、実施・評価に繋げました。
3．スコアシートを活用し口腔内環境改善への意識を高めました。

**おわりに**

**スコアシートの活用、多職種との連携で看護師個人の意識・知識が高まり、口腔内環境の改善を実感し合えるチームをつくっていくことが看護の質の向上につながるとわかった。**

おわりに

スコアシートの活用、多職種との連携で看護師個人の意識・知識が高まり、口腔内環境の改善を実感し合えるチームをつくっていくことが看護の質の向上に繋がると分かりました。

引用参考文献

1）第56回全国国保地域医療学会特集号「口腔ケアのスケールを活用したことで見えてきた看護の変化」
2）第39回日本看護学会論文集成人看護Ⅱ「看

護師による口腔ケア実施率の上昇」
3）看護技術58（1）Eilers 口腔アセスメントガイドと口腔ケアプロトコール